

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月30日

【評価実施概要】

事業所番号	3770102758		
法人名	有限会社イキキライフセンター		
事業所名	グループホームほおずき		
所在地	香川県高松市松並町649番地1 (電話) 087-815-3810		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年7月9日	評価決定日	平成19年8月30日

【情報提供票より】(19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 16年1月15日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	7人、非常勤 2人、常勤換算 7.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての2~3階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	16,000円+実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または 月 30,000円		

(4) 利用者の概要(7月9日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 81歳	最低	57歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	栗林病院、トイバナクリニック、全人クリニック、佐藤クリニック、亀田歯科
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>このホームは、市内中心部から比較的近い住宅街にあり、道路に面しているため、朝夕の出勤時間帯は交通量も多いが、日中は、比較的静かである。ホーム内は落ち着いた色調で統一され、明るく清潔なホームで、利用者もゆったりと自分のペースで過ごしている。事業者は、利用者、家族の意見を十分に取り入れ、家庭的で和やかな雰囲気を感じられた。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホームの運営理念の啓発活動の取り組みについては、自治会を通じて、「ほおずき新聞」を各家庭に回覧できるよう取り組んでおり、順次改善されつつある。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域との関わりとして、自治会や小・中学校との交流に取り組む等、実践に向けての意欲がうかがえる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域や小・中学校等との交流や、「ほおずき新聞」を通じて、地域への啓発、イベントや行事等の協力依頼などを協議し、実現につなげていくための意欲がうかがえる。運営推進会議を通して、市との連携のあり方について、検討されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の要望、意見を積極的に取り入れるため、意見箱の設置や面会時を利用して、意見や要望を聴き、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会組織に加入し、地域の活動に、入居者と共に積極的に参加している。地域住民との交流には至っていないので、小・中学校に交流を求める等の努力をしている。今後の取り組みが期待される。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関わりは、自治会に加入したり、行事に参加すること、広報誌の回覧等を試み、独自の理念づくりに努めている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員が協力して、お互いに理念を共有し、日常のケアを通じて、いつも再確認しながら、日々取り組んでいる。	○	新任職員には、ミーティングや日々の申し送り等を通じて、早急に共有できるよう指導が期待される。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事に参加したり、入居者が地域で買い物をする時に、気軽に声をかけ合ったり、外出時に駐車場を利用させてもらう等、地域との交流に努めている。また、地域の小・中学校との交流も計画されている。	○	地域の人が気軽に立ち寄りやすくなるまでには至っていないので、日常的な付き合いができるよう、今後の取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解しており、関係者全員で自己評価を行い、サービスを見つめ直すことで自己啓発につながる等、具体的に真剣な取り組みがうかがえる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録から、毎回活発な意見交換や貴重な意見がうかがえる。地域住民から事業所への理解は十分され、協力方法等が示されれば協力したいとの意向があり、今後の取り組みに期待したい。	○	会議での課題に真剣に取り組んでおり、情報誌を活かして、地域住民との交流をすでに計画しており、サービス向上に活かせることが期待できる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議以外での連携は十分でないので、市町村との連携を密にし、サービスの向上に取り組みが望まれる。</p>	○	<p>運営推進会議に出席の市関係者との関係を利用して、共に連携を密にし、市と共に介護サービスの向上に努めることが望まれる。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、ほおずき新聞と各担当者が、自分の担当する家族に現況を手紙にして、定期的に報告している。また、写真や映像をCDにして家族に送ることも検討する等、家族への配慮に努めている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約書に苦情、意見の連絡先を明示したり、「意見箱」を設置しているが、現在まで皆無である。また、家族の面会時には、意見や提案を求め、運営に反映されている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や離職を最小限にするため、魅力ある事業所にするために努力している。職員の離職にあたっては、早く人員を確保し、新職員が事業所の雰囲気慣れ、利用者へのダメージにならないよう配慮されている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム内では定期的に研修を実施し、法人外の研修案内は全職員に周知して、希望者には参加への配慮をしている。必修研修は、勤務年数に応じ参加している。現在は、職員の希望に任せているが、今後は、全職員が段階に応じての研修を受けることを検討されており、職員を育てる取り組みがなされている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>香川県グループホーム協議会の研修に、職員は参加し、他ホームとの情報交換や見学を行い、サービスの質の向上に努めている。</p>	○	<p>職員の希望により、同業者との交流のため、他ホームに受入れを要請したが実現に至っていないので、ボランティアとして訪問する機会を確保し、相互訪問が実現するよう計画しており、今後の取り組みに期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と面談や情報収集を行って、本人が納得したうえで、入居という手続きをとり、職員との馴染みから、徐々に他の利用者と馴染めるよう配慮している。ショートステイが利用できれば、少しずつ馴染めるので、指定申請を検討されており、今後、更なる期待が持てる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の立場に立って、家庭的雰囲気づくりに努め、家族の立場や生活に置きかえて、共に支えあう関係が築かれ、和やかな生活空間がうかがえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望のある利用者には、家族と相談しながら調整を行い、一人ひとりの希望の把握に努め、希望の実現に配慮している。困難な場合は、家族からこれまでの生活状況等を聞き、本人本位の希望に添って検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を聞き、職員でそれぞれの意見を出し合い、意向を反映して、介護計画を作成している。今後は、介護計画作成以前に、もっと本人、家族の意向を確認して、反映された最善の計画になるよう検討されており、今後、更に期待が持てる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、介護計画の評価を行い、必要に応じ、見直しを行っている。毎月の評価は、定期的に家族に報告している。現状に即した新たな計画を作成する場合の、介護計画の作成にあたっては、関係者との話し合いを十分行うことが期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じ、事業所の機能を活かした柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期的な往診や、かかりつけ医といつでも連絡が取れ、助言が得られ、適切な医療が受けられる体制ができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と医師と共に話し合い、入居者の一番良い方法を考慮し、職員全員で支援に向けた方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に、利用者のプライバシーを損ねない対応を職員間で理解し、職員の共通理解ができている。時々、トイレや浴室のドアを、声かけなしで開けることがあり、今後は、更にプライバシー確保に努めることを期待したい。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを優先して、生活できるよう配慮されている。時によって、職員の都合が優先することがあり、職員が余裕をもって支援できる体制づくりを期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけを、利用者と職員が分担しながら一緒に行い、利用者と職員が楽しみながら、一緒にテーブルで食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に添って、入浴の曜日や時間帯を決め、入浴を楽しめるように支援している。一日に入れる人数が限られるので、希望に添えない時の対応の検討を期待したい。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や力を活かし、野菜の栽培、繕い物、洗濯や掃除などの役割による作業や、映画や芝居の観賞、買い物等の楽しみごとや気晴らしの支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や意見に添って、買い物やイベント行事等に、積極的に外出できるよう日常的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が理解しており、安全面に配慮して、利用者の自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携し、年2回、防災訓練の実施と避難の方法等の指導を受けている。地域の協力を得るため、自治会の防火災害委員会に日頃から働きかけができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分摂取量は、毎食時、おやつ時、入浴後などの摂取を一人ひとり記録し、栄養バランスや水分量が確保できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者とゆったりと雑談したり、共に作業ができるよう、居心地のよい共用空間となっている。また、季節の花を生けたり、不快な音や光がないよう配慮され、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、使い慣れた家具や写真が飾られる等、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		